

さくらみ川

第五六号 平成十八年一月一日
熱日高彦神社社務所

電話 〇三四 六一〇四一

<http://hitaka.org> atuhitaka@hitaka.org



春 迎

よみがえり

宮司 黒須 主計

明けましておめでとうの言葉です。

新年を迎え、また一し年をとりました。年を重ねるためだともほむほど。しかし正月がめでたいのは、新しい年神(年徳神)様をお迎えし、氏神様の御霊があらたまると共に、そのお力をいただいて、つまり年玉=年魂をいただいて、家族みんなの魂もあらたまり清々しく若返るからです。「あらたまの・・・年をとるとは新しい魂をいただくこと」。新しい年を迎えると、何かとてもあらたまった気持ちになり、希望と力がわいてくるのです。これが日本人の考えや生活の最も根源をなす「よみがえり=魂の更新」です。新たなご神威をいただき、この一年を幸せにお過ごしください。

さて、皇室の御祖神、日本国の総氏神であります伊勢の神宮では、昨年より第六十二回目の式年遷宮が始まりました。二十年に一度、御社殿から御神宝までを作りあらためます。全てを新しくするごいで神様の御神威がいよいよ増し輝く。これは「よみがえり」の最たるものであります。

当神社でも本年、皆様の募財を頂き、いよいよ修繕整備事業を開始します。神様の御霊が「よみがえり」のにふさわしい最良の修繕・整備をして来る御鎮座千九百年を迎えたく存じます。氏子ならびに崇敬者の皆様には、更なるお力をいただきますよう、お願い申し上げます。

正月祭典のご案内

歳旦祭 (さいたんさい)

日時 元旦午前0時より30分ほど 場所 本殿

おだやかでみのり多い年になりますよう、皆でお祈りいたしましょう。

どなたでもご参列いただけます。暖かい服装でご参集ください。

参列いただいた方(ご家族)には、お札をお渡しいたします。

祭典に続き新年のご祈禱をいたします。ご希望の方は事前にお申し込みください。

お日待ち (神棚祭)

正月中、神主が氏子中を訪問し、神棚祭をご奉仕いたします。

ご家族そろってご参列下さい。

厄祓(やくばらい)などのご祈願もあわせて申し受けます。



斎火祭 (とんど祭) 奉納和紙とうろう



日時 正月14日(土) 夕刻~午後8時半

場所 本殿前境内広場

正月飾りや古いお札などをお持ちください。とんどの火は一年無病息災のもと。お宅の鏡餅を持参して焼いて下さい。温かいふるまいも待ってます。

また、和紙とうろうの奉納を申し受けます。各区の総代さんにお申し込みください。

お願い 燃やすことにより有害ガスが発生すると思われる物(ビニールなど)は外すか、分別してお持ちください。

年中行事を楽しもう

七草(ななくさ)

七草といえは一般に「せり、なづな、こぎょう、はこべら、ほとけのぎ、すずな、すずしろ」の「春の七草」をいいます。正月七日の朝にこれらを入れた「七草がゆ」を食べると一年中健康でいられると言われ、伝えられています。

古くは八〇七年に伊勢神宮でのお供えの記録があります。大正月の直会(なおりい)のともいえますが、無病息災などの除災の意味も強いようです。

「唐土の鳥と日本の鳥と渡らぬ先に七草なずな」などと歌いながら、大きな音でまな板の七草をたたき刻みます。

いづれにしても、正月料理に疲れたお腹にはありがたい慣わし。最も寒い頃で、野に出て全部はそろわないでしょうが、親子で探してみてもいいかもしれません。

〓お知らせ〓

三月三日のひな祭りにあわせ、長く親しんだ人形や玩具に感謝し、供養するお祭りを予定しております。近くなりましたしたらご案内いたしますが、ご要望やご意見がありましたらお寄せください。

事業だより

工事依頼業者を決定

工事をお任せする業者の選定は、信仰と歴史的に重要な社殿・境内整備に着手すると言つこと。皆様からの浄財で行う公共事業との位置づけから、事業委員会において慎重に審議してまいりました。その結果、それに相応しい方々の応募があり、その中から十一月中までに全て決定いたしました。

- 社殿修繕 (株)佐善工務店
- 境内整備 (株)菅野工務店
- (有)竹内組

- 電気設備 富田商店
- 森林整備 大橋幸男

お日高さんの環境は素晴らしい!

関係者で神社視察研修

十月から十二月にかけて、神社役員、総代、顧問、関係業者などで、福島県北部や山形県南部の社寺を視察してまいりました。よりよい修繕・整備を行うため、実際のものを見て詳細のところを決めたいとの意見からです。東石の高さから側溝の石の種類まで、吟味し、共通の認識を持つという思いでした。

結果として、多岐にわたりたいへん参考になりました。特に「熱日高彦神社ほどすばらしい



環境の神社は他にない」と皆が一樣に再認識したことが最大の収穫。その想いの冷めやらぬ内に会議を開き、研修の成果を計画に盛り込みました。今後長時間の許す限り、より良い事業ができるよう研鑽を重ねて参りたいと思えます。

社頭あれこれ

収穫の秋に

篤志者四名に感謝状

本年の実りを感謝する新嘗祭に併せて、感謝状授与式が執り行われました。

夏祭、斎火祭で有志協力者を支え照明器具なども提供下さる斎藤勝二さん(株)斎藤管工社長)、同じく焼き鳥を奉仕的に提供して下さる引地弘喜さん(株)ヒロキ社長)、当初より長年有志の活動を続けて来られた只野安博さんら。また総代でもある渡辺郷司さんは、お孫さんの誕生記念

に金幣一台を奉納されました。

あらためて感謝申し上げます、ご紹介いたします。



車被所舗装工事を奉仕

(有)赤坂舗装建設 赤坂富士男さん

昨年十二月、大谷地区で(有)赤坂舗装建設を営む赤坂富士男さんが、お正月に間に合うように、車被所の舗装工事をご奉仕下さいました。



お日高さんの自然

サネカズラ(実葛)

(ピナンカズラ(美男葛))



神社の石段の中腹に、ピナンカズラがある。約三十五年前に現宮司が植えたもので、毎年、鹿の子餅(注1)のような実をつけるといふ。先日、ピナンカズラを確かめに相馬の磯辺海岸に行ってみた。文献などによると分布は関東以西になっていて、このものは自生かどうか疑わしい。見事に赤い実を沢山つけていたので、いくつかを頂いてきてホイトリカーにつけた。五味子(チョウセン)の(実)の代用になり、強壮の効果があるといふ。

さて、ピナンカズラの名の由来であるが、正式にはサネカズラなので、サネカズラの名の由来から述べよう。さね(実)は核、つまり種を保護するために覆った硬い内果皮のこと、果実そのものではない。

普通の果実であると、核は果肉と外果皮とに覆われていて外からは見えない。

ところが、サネカズラの鹿の子餅に似た姿の実は、実際は小さな漿果(注2)の集まったものであるが、植物学に無縁の昔の人の常識では、あの小さな粒の二つ一つが独立した果実だとは思ってもよらない。鹿の子餅の形をした全体を一つの果実とみると、果肉と外果皮に当たるものがないとすると、これは、さねがむき出しになったものと考えざるを得ない。こうして、さねのあらわになった葛の意味で、さね葛の名が起ったのだらう。

サネカズラの蔓から出る粘液を、昔は男性の整髪に用いたので、別名を美男葛ともいふ。又、男性ばかりでなく女性も使ったといふ。美女葛とも呼ばれた。大阪では美人草とも称していたといふ。

(注1) 飴で包んだ餅に小豆などをくっつけた和菓子
(注2) みずみずしい果実 フドウやトマトなど

(文/小島和夫氏)

米 1奉納・1奉仕 5555

米、野菜、果実など奉献

各區 神社総代各位(新嘗祭神饌)

一區 佐藤幸男、斎藤公一、佐藤俊一、赤坂敏栄

二區 只野りつ子、只野吉次、佐藤雅邦、赤坂誠、

跡部洋、木幡市郎、赤坂昭海、黒須嘉次男

三區 戸村賢治

四區 佐藤善一、三品久志、小野良雄、斎藤福男

五區 佐藤正雄、只野純一

横倉 柄目克子 野田 梅谷友二(魚)

浄財など奉納

角田 小鴨やよ江(金十万円)

神具・器具など奉納

二區 戸村賢治(作業用リヤカー)

境内整備など奉仕

三區 佐藤勝征(下刈) 角田 黒須清一(除草)

植木・花など奉納

一區 斎藤實(菊花) 二區 戸村賢治(植木)

丸森 大橋幸男(植木)

順不同、敬称は略させていただきます。また、前号で一區の

斎藤正士さんの名前を間違いました。お詫びし訂正します。

社頭曆

一月 一日 元旦 歳旦祭 初詣

七日 七草

九日 成人の日

一四日 斎火祭(とんど祭) 献灯

一五日 小正月

二月 一日 如月月次祭

三日 節分祭

一 一日 建国記念の日

一七 日 祈年祭

三月 一日 弥生月次祭

三日 ひな祭 人形感謝祭

二二 日 春分祖霊祭

編集後記 明けましておめでとございます。本年も、「さくらみ川」を宜しく願います。